

サビエル生誕五百年



巡礼の道

174

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

地雷との戦い

地雷には戦車を爆破させるような大型のものから、踏んだ人を殺傷させる小型のものまで世界に約四百五十種類あるという。

地雷には戦車を爆破させるような大型のものから、踏んだ人を殺傷させる小型のものまで世界に約四百五十種類あるという。

るダメージは大きい。何という非人道的発想だろう!!

和平を取り戻したカンボジアでは、小型地雷で両足を切断したなどの障害者がたくさんいる。それを実感したのは首都プノンペン郊外にある「はとの家」を訪れた時だ。

国際キャンペーンでノーベル平和賞を共同受賞したトウン・チャナレツさんもこのスタッフの一人だ。



木彫りに取り組む両足を失った女性

2009.07.25

寮もあり、障害があっても自立して生活していけるように一年間かけてその人に合った技能を身につけるのである。

技能はバイク修理、溶接技術、木彫り、編み物、洋裁など多岐にわたる。我々が日本から訪ねて来たということで大勢の訓練生が集会所に集まってくれた。義足でツエをつく人、車いすの人などさまざま、若い女性もたくさん含まれている。これは戦争や内戦によってだけ

ではなく、日常の農作業中に地雷に触れることが多からであらう。そういえば二〇〇一年にカンボジアを訪れた高校生の報告書に次のようにあった。

「アンコール遺跡の道路は舗装され、平和そのものの。しかし観光地から少し外れた周辺部は非常に貧しい村が多い。

地雷が埋まった土地に住み着き、地雷による事故で障害を負いながら村を作る。しかし村ができると政府から『観光客から見える』という理由で追い出さ

れる。そして、また地雷の危険にさらされながら村を作る」

地雷との戦いは我々には見えないところでも今も続いているのだ。

トウン・チャナレツトさんは「目に見える地雷だけでなく、あなたの心の中の無関心という地雷を撤去して下さい」と訴える。

マザー・テレサも同じことを言われた。確かに私の心の中に「他人に無関心」という大きな地雷がある。

(元山口放送取締役ラジオ局長)

「地雷の危険がある」の看板



つまり、殺せば敵は一人減るだけだが、歩けなくなればその人を介護する人が必要となり、その方が敵に与え



集会所を出る訓練生